

昭和20年 枕崎台風

【昭和20(1945)年9月17日~18日】

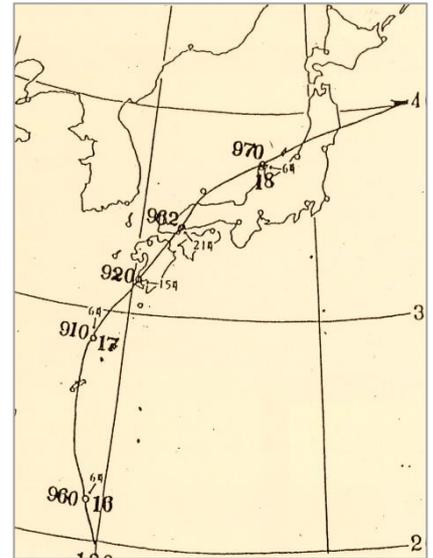
■気象の概要

9月17日午後2時30分頃、九州南端の枕崎付近に上陸した大型で強い勢力の台風(昭和20年第16号)は九州・中国地方を横断し日本海へ抜け、東北地方を再横断し太平洋に去りました。枕崎で観測された最低海面気圧916.1hPaは、昭和9年の室戸台風時の911.6hPaに次ぐ低い値です(正式な気象統計は昭和26年以降なので参考値)。最大風速は枕崎で40.0m/s(最大瞬間風速62.7m/s)、広島で30.2m/s(同45.3m/s)を観測しました。台風襲来の前に日本列島上には秋雨前線があり、連日の降雨に加え台風の接近に伴う前線の活発化、台風本体の雨雲によって、中国地方各地は17日に100mm~250mmの豪雨となりました。

■台風前・当日の雨量(mm)

地点	9~16日		計
	9~16日	17日	
鳥取	111.5	115.6	227.1
境港	153.8	213.1	366.9
松江	169.7	197.0	366.7
浜田	151.8	136.7	288.5
岡山	54.6	36.1	90.7
津山	86.5	234.2	320.7
福山	52.0	99.7	151.7
呉	-	221.8	221.8
広島	77.8	195.5	273.3
下関	82.4	146.7	229.1

(気象庁HP:「過去の気象データ」より)



枕崎台風経路図

【出典: 広島県「広島県砂防災害史」】

■被害の状況

枕崎台風による全国の被害は死者2,473人、行方不明1,283人、負傷者2,452人に及び、台風の勢力と被害の大きさから、室戸台風、伊勢湾台風と並ぶ「昭和の三大台風」に挙げられます。

中国地方の犠牲者2,929人は全国の78%を占め、とりわけ広島県は死者・行方不明2,012人を数え、原爆の惨禍に追い打ちをかけました。広島県内で特に被害が大きかったのは呉市、大野町、江田島町などの広島湾周辺地域で、人的被害のほとんどは中小河川の土石流によるものでした。呉市街地は背後を急傾斜の山地に囲まれ、戦時中の伐採、軍用道路・防空壕の建設、空襲等により荒廃した山肌に、17日の午後6時から10時の4時間で113.3mmという豪雨で土石流が多発しました。大野町(現、廿日市市)では陸軍病院が土石流の直撃を受け180人近くの犠牲者を出し、宮島の厳島神社でも土砂や流木により被災しました。一方、広島県東部では芦田川の氾濫による被害が大きくなっています。

山口県では、東部の錦川や島田川流域、北部の津和野郡一帯で大きな被害が発生しました。また、岡山県では吉井川流域、島根県では斐伊川や江の川流域で河川の氾濫や土砂災害による被害が大きくなりました。枕崎台風では、敗戦直後で気象情報の伝達や防災体制も不十分なうえ、敗戦の心的動揺からも被害が拡大したと言われています。



土砂に埋没した市営バス(呉市二河公園)

【建設省河川局治水課長伊藤剛氏撮影】



土石流の直撃を受けた大野陸軍病院(現、廿日市市宮浜温泉)

【出典: 広島県土木建築部砂防課「広島県砂防災害史」】



芦田川の氾濫状況（現、府中市須町付近）
【出典：福山工事事務所「直轄河川防御対象氾濫区域図（芦田川）」】



宮島、厳島神社に流出した土砂
【出典：広島県土木建築部砂防課「昭和20年代砂防災害写真集」】

■枕崎台風の主な被害

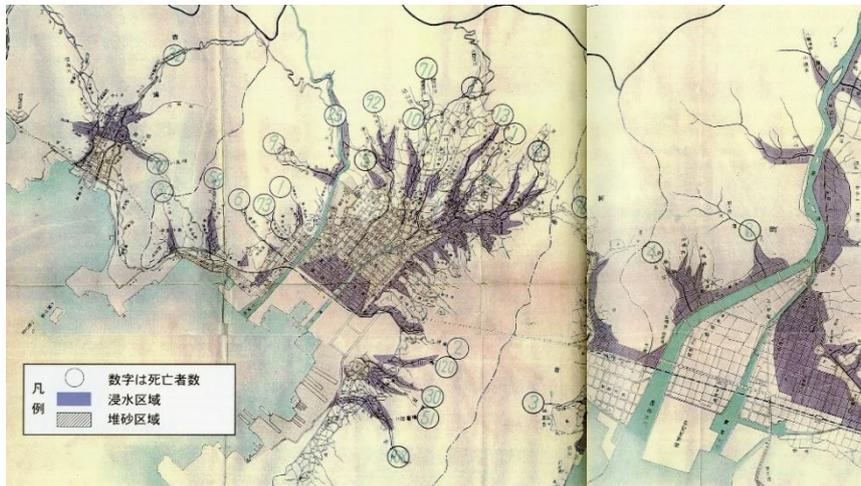
区分	単位	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	中国計	全国
人的被害	死者	6	58	79	1,229	427	1,799	2,473
	行方不明	4	21	48	783	274	1,130	1,283
	負傷者	4	68	16	1,054	283	1,425	2,452
住家被害	全壊・流失	65	629	1,837	3,457	1,831	14,412	-
	半壊	43	415		3,375	2,760		-
	浸水	2,247	16,009	32,278	52,527	31,121	134,182	-

※全国数値は理科年表による

■広島県内人的被害の内訳(人)

市町村	死亡原因	
	土砂災害	不明・その他
広島市		24
呉市	1,154	
福山市		11
府中市		102
大竹市		32
熊野町	5	
坂町	4	
江田島町	252	
大野町	200	
沖美町	97	
吉田町		4
向原町		3
大和町	14	
新市町		13
合計	1,726	189
市町村不明	97	

※市町村は平成の大合併以前
(資料：社団法人広島県森林協会「昭和20年以降の大雨等による人的被害調査」)



呉市の災害発生状況図

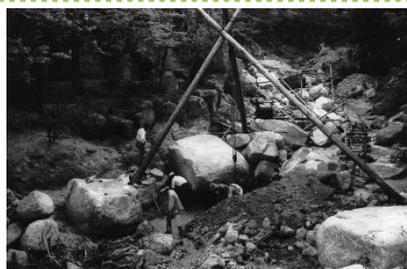
【出典：広島県土木部砂防課「呉市の水害について」】

災害のない明日を目指して

●宮島、紅葉谷川庭園砂防

宮島の災害復旧にあたっては、史蹟・名勝、日本三景にふさわしい工事が求められ、全国でも例をみない造園風の「紅葉谷川庭園砂防」が行われました。現地の石材は傷つけない、コンクリートは野面石で包むなどの趣意書に基づき、機械力に頼らず、山野の破壊を防ぐ手法がとられ、春夏秋冬に美しい姿を見せる砂防溪流が創り出されました。こうした先人の志と努力が、平成8年(1996)の宮島の世界遺産登録につながったといえます。

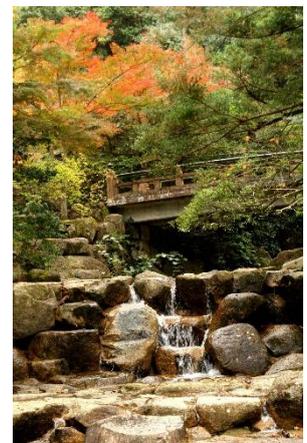
【詳細については、当会ホームページ「土木遺産アーカイブス・広島県」参照】



巨石の移動に機械力を使わず「かぐらさん」(3本の木を立てたチェーンブロック)を使用



堰堤のコンクリートを野面石で包む

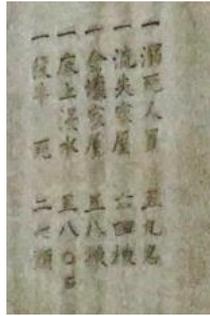


紅葉谷川庭園砂防

【工事写真の出典：広島県土木建築部砂防課「昭和20年代砂防災害写真集」】

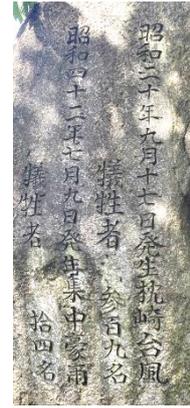
災害の記憶を伝える

※碑の写真をクリックすると位置が表示されます



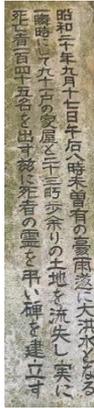
洪水災害復旧記念碑（広島県府中市高木町）

芦田川左岸の堤防下にある碑には、旧国府村（現、府中市高木町・中須町・府川町等）における被害の概数や、復旧活動について記されています。この地域の犠牲者の死亡原因は、ほとんどが溺死だったことがうかがえます。



宮原地区風水害犠牲者慰霊碑（広島県呉市宮原）

呉市の「歴史の見える丘」の一角に建てられている慰霊碑は、昭和20年の枕崎台風と昭和42年7月豪雨による二つの土砂災害で犠牲となった宮原地区の人々を弔うものです。



昭和二十年水害慰霊碑
（広島県江田島市切串）



慰霊碑（広島県江田島市
大須）



昭和二十年水害慰霊碑（広
島県江田島市大原）

旧安芸郡江田島町（現、江田島市江田島町地域）では、枕崎台風により島の溪流で土石流が多発し、250人以上の犠牲者が出ました。被害の大きかった切串地区（死者145人）、大須地区（死者46人）、大原地区（死者18人）などでは、それぞれ地区毎に慰霊碑が建立されています。



水害死歿者供養塔（広島
県廿日市市宮浜温泉）



京大原爆災害調査班遭難記念碑
（広島県廿日市市宮浜温泉）

旧佐伯郡大野町にあった大野陸軍病院では、敷地の中央を流れる丸石川で発生した土石流の直撃を受け、180人近くの方が亡くなりました。その中には、被爆者の医療方法研究のため派遣された京大原爆災害調査班の関係者も含まれていました。全体の供養塔とは別に三角形の壁が立つデザインで京大調査班遭難記念碑も建てられています。